

# ENTERTAINMENT



『ペルセポリス 1』  
マルジャン・サトラピ／著  
園田 恵子／訳  
バジリコ 2005年

イラン出身の著者・マルジャンの半生を描いた自伝的作品。全2巻。

上流階級の先進的な両親のもとで欧米文化に親しみ、活発な少女に育ったマルジャン。だが、やがてイスラム革命が起き、イラン・イラク戦争が勃発。女性は髪と身体を黒い衣服で隠すよう命じられ、路上を走ることやロック音楽を聴くことも非難されるようになり、生活は一変。抑圧に抵抗し逮捕された市民や親族は次々と処刑されてしまう。

マルジャンが学校の先生に口答えしたことをきっかけに、娘の身を案じた両親は彼女をウィーンへ留学させる。しかしマルジャンは現地の学生との自由で自堕落な生活と、常に命の危険にさらされて暮らす故郷との落差に次第に罪悪感を覚え始める。やがてイラン人であることを隠そうとした自分への失望を経て、家族に会えない寂しさ、戦争のない国で暮らす人々との価値観のすれ違い、失恋によって周囲から孤立。ついには家までも失ったマルジャンは、一度脱出したイランへ4年ぶりに帰ることを決める…。

暴力や抑圧に対する怒りと家族への愛着、故郷への複雑な愛憎を抱きながら欧州とイランを往復し、自分の意志でフランスへ渡るまでの紆余曲折をモノクロームでコミカルに描いたバンドデシネ(フランス語圏の漫画)。人間らしい生活を奪う圧政への恐怖など、重いテーマを扱いながらもユーモラスに描かれており、イランで暮らす人々の心情が異国の読者にも温かみをもって感じられる。

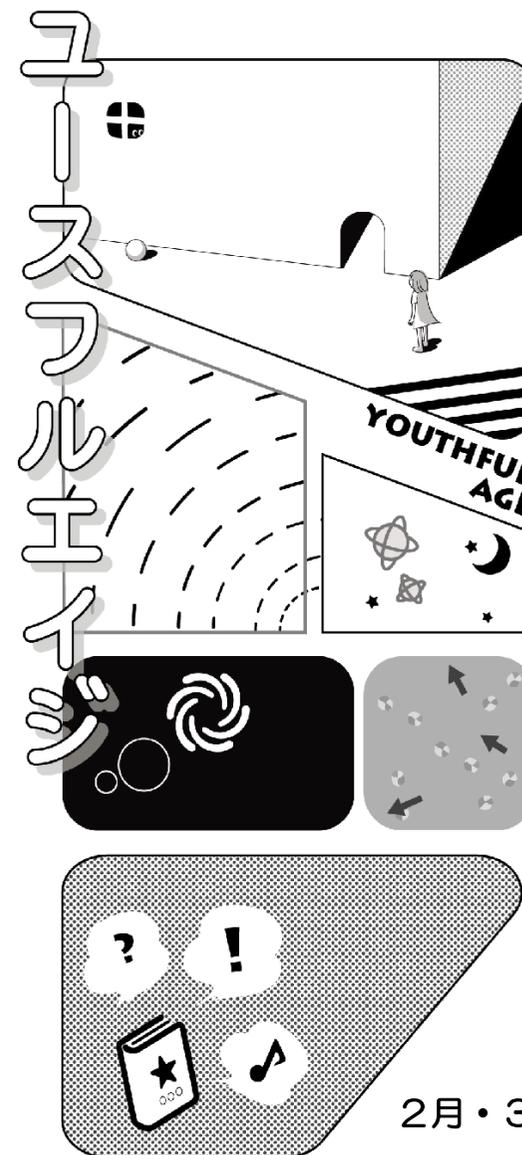
「ユースフルエイジ (Youthful Age)」は YA世代に送る、本・漫画・映画・音楽などのおすすめ情報を掲載した渋谷区立図書館が発行する定期刊行物です。

YA(ワイエー)とは…  
Young Adult(ヤングアダルト)の略で、おおむね12歳から18歳までの人たちのことをさします。

ユースフルエイジ  
2022年2月・3月号【No.6】

発行／編集 渋谷区立図書館  
株式会社図書館流通センター  
発行日 2022年2月

渋谷区立中央図書館  
電話 3403-2591  
住所 渋谷区神宮前1-4-1



2月・3月号  
【No. 6】

SHIBUYA CITY LIBRARIES

Pick Up!

# Recommended books

## 「ものさし」はひとつじゃない

『「役に立たない」研究の未来』  
初田 哲男／著 大隅 良典／著 隠岐 さや香／著  
柴藤 亮介／ナビゲーター  
柏書房 2021年

お金にならないものには価値がない？  
役に立たないものが存在する意味って何？  
自分のやりたいことが評価されなかったらどうする？

「もっと知りたい！調べてみたい！」そう思えるものに出会った時、それが何の役に立つのかなんて分からなくても大丈夫。アインシュタインのような天才科学者たちだけが科学の歴史を築いてきたわけではない。世間から注目されず、その時は役に立つか分からなかった誰かの研究や理論が、分野を超えて社会を変える偉大な発見に繋がってきた。

単純な「ものさし」ですぐにその価値を判断せず、まっすぐ自分のやりたいことができる社会を作るにはどうすべきか？「役に立たない」研究をする意味、その重要性を社会に広く知ってほしいと集まった異分野の研究者たちが真摯に語り合う。



『「空気」を読んでも従わない』  
鴻上 尚史／著  
岩波書店 2019年

頼まれると断りにくい、皆と違うことをするのが怖い…。いつの間にか出来上がっていて何となく逆らえない「空気」の正体を、海外と日本の宗教・歴史・文化を対比させながら丁寧に解説。

他者と生きていく中で抱く不安や息苦しさに寄り添い、劇作家としての著者の経験を通して、同調圧力の外へ一歩踏み出す勇気の持ち方を探る。



『浮いちゃってるよ、バーナビー！』  
ジョン・ポイン／著  
オリヴァー・ジェファーズ／画  
代田 亜香子／訳  
金原 瑞人／選  
作品社 2013年

生まれつき、ふわふわと宙に浮かんでしまう8歳の少年バーナビー。「ふつう」を愛する両親に家を追い出され、世間から「浮いている」心優しい人々に出会いながら、大冒険を繰り広げる。

様々な価値観に触れて、「ふつう」って何だろう？と考えはじめた少年が選んだ、自分らしい生き方とは…。

New!

『野田クリスタルのこんなゲームが作りたい！』  
野田 クリスタル／著  
廣瀬 豪／著  
インプレス 2021年

お笑い芸人・野田クリスタルとゲームクリエイター・廣瀬豪がタッグを組み、Scratchを用いた本格的なゲーム作りを解説。パラエティーに富んだオリジナルゲーム5本を楽しめる。



『AIの時代を生きる』  
美馬 のゆり／著  
岩波書店 2021年

AIの存在感が増し、便利な暮らしへの期待や憧れが高まる一方で、仕事を奪われる不安に揺れる現代人。人間とAIの未来はどうあるべきなのか、AIの技術的な説明から社会的な影響まで、さまざまな視点を提供する。



# COLUMN

## 個性を武器に

あなたが得意なことは何ですか？  
学校のテストや部活動などで、自分と他人を比べてしまう機会は多くあります。皆のようにふつうにできず、苦しい思いをすることもあるでしょう。そもそも、ふつうとはなんでしょうか？  
人間の脳は、いろいろなものがたくさんある状態が苦手です。順位をつけ、平均から優劣をつけることで、複雑で多様な世界を理解しようとしてます。しかし本当はそこに優劣はなく、ただ個性という違いがあるだけです。  
自然界では種の全滅を防ぐため、さまざまな個体が存在します。大きな環境の変化に直面したとき、人間の視点では不器用な個体がいたからこそ生き残り、やがてその個体が時代の標準になってきました。  
生き物たちの生存戦略には、個性を武器に、自分らしく生きるための「ものさし」を探すヒントが詰まっています。



『はずれ者が進化をつくる』  
稲垣 栄洋／著  
筑摩書房 2020年